

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子代々木西参道保育園
施設所在地	東京都渋谷区代々木4-27-6
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

野菜は子どもにとっても食材として身近な存在である 身近な物こそ、植えて、栽培し、口に入るまでの過程について子どもたちの興味関心を深める

2. 活動スケジュール

<p>4月初旬 夏野菜の栽培</p> <p>3歳児以降のクラスでは子どもたちが中心となって子ども会議の中で自分達が育てたいもの話し合い、興味関心を探りながら育てるものを決定した 保育士は何の野菜が育てられるのか、育て方をネットにて学ぶ</p> <p>2歳児ピーマン 3歳児なす 4歳児おくら 5歳児えだまめ</p> <p>4月下旬 5歳児が畑の土作りを手伝い、環境を作る 4月24日に土等の資材購入</p> <p>5月12, 15日 決められた苗や種を購入</p> <p>5月中旬 各クラス種まきや苗植えを一緒に行う</p> <p>5月下旬～ 4, 5歳は自分達が育てているものの変化をより知るために観察記録を作成した。クラスで観察記録を1冊用意し、子どもたちが当番になって、定期的に観察記録（絵や文章をかく）ようにした 2～3歳児は散歩の前後に観察したり、水やりをおこなった。</p> <p>6月16日 栽培物が大きくなるにつれて、4歳児クラスではこのままでは育てているオクラが倒れてしまうということに気が付き、支柱を購入して取り付けをおこなった。他のクラスもそれをマネして支柱を立てた。</p> <p>7月～ 収穫された野菜をみて、子どもたちが栄養士と話し合い、育てた野菜はどういう形で給食として食べることができるのか一緒に考えて考えることで、子どもたちが主体的に食育について考える機会を設ける</p> <p>9月 4, 5歳児クラスは収穫し終わった野菜を抜き、根の長さや背の高さを見て、自分たちが事前に感じていたイメージとの違いを感じた。実際にみたものを絵にして表現し、他の子どもたち同士で話したりしていた</p> <p>9月初旬 秋冬野菜の栽培</p> <p>2～5歳児クラス自分達が育てたいものを子どもたちと話し合い、興味関心を探りながら育てるものを決定する</p> <p>2歳児小松菜 3歳児ほうれん草 4歳児きゃべつ 5歳児ブロッコリー</p> <p>9月9日、25日 必要な苗、種を購入</p> <p>9月中順～ 各クラス順次栽培を進める 4, 5歳児が観察記録を作成。絵や文章を交代で書き、クラスの観察記録帳を作成。2, 3歳児は散歩の合間の成長観察や、水やり、雑草抜きなどをおこなった。</p> <p>12月以降 購入したiPadを活用した観察を行う。収穫した葉っぱや根っこなど撮影してまとめたり、気になることはiPadで調べること、さらに子どもたちが知見を深めることになった。収穫した野菜は夏野菜と同様、調理スタッフと話し合いを行い、給食で食べることを考えてもらい、翌日の給食で自分たちが育てた野菜を食べ、食育について考える機会となった</p>

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<p>プランター、支柱、肥料 苗 種</p> <p>観察日記のフォーマット作成：毎日無理なく記入できる書式を保育士が設定 観察用のIpad</p> <p>ドキュメンテーション掲示場所の設定：保護者共有のため場所を設定</p> <p>畑の造成：実野菜、葉野菜、根野菜など制約なくたくさんの野菜に子どもが興味を持って選択できるような畑の環境を整備</p>

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 保育者自身が知見を深める：自然に触れるための畑の活動のため各自がネットや書籍を使い調べる
2. 自然に触れる為の環境作り：5歳児の協力で畑の整備、各クラスで相談して決めた野菜の栽培
3. 成長や変化を知る：育てている栽培の変化を知り、理解するために観察記録を行う。4～5歳児の観察記録の作成、2～3歳児の観察と水やり
4. 子どもが知見を深められる環境づくり：書籍やiPadの準備。栽培した野菜の観察を通して子ども自身が探究を深める。
5. 収穫した野菜を給食で食べる。栄養士との話し合いで献立を決める。実際に食べてみることで野菜への興味関心を深める。
6. 秋冬野菜の栽培：夏野菜と比較して、秋冬野菜は知識が少ないので、話し合いや調べ物を通じて、特徴を知り、知見を深める
7. 子どもたち自身が野菜の情報を発信する：子どもがドキュメンテーションを作成し、保護者や地域の人へ野菜の栽培活動を情報発信することで、子どもたちが自信をつける

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

子どもとどんな野菜を育てたいかを子ども会議で話し合い、まずは保育者が「夏の野菜ってなにがある？」の問いから子どもからは様々な野菜の名前が出てくる 自分達で育てたいものを決めたところ、観察記録や水やり、追肥、中耕といった所から栽培する意欲が高まったようだ
観察中は野菜の変化に気付き、成長段階があることを学んだ
育てたものを食べるという中で苦手を克服したり感謝の気持ちも育ったようだ
収穫期最後には全部抜き取り、野菜の茎や根を観察する機会も設け、普段口にするだけではわからない茎や根を知ること探求心を深めた様子であった



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

地域柄子どもたちが自然に触れることが少ない、栽培した野菜を食べることや調べる栽培することに興味を示しづらい様子があった

保育士自身も栽培についての知識、経験が乏しかった

始めに保育士が書籍やネットで知識をつけるところから始める

保育士が知識を付け、興味を持つことで子どもたちとの話し合いも活性化することになり、自分達で育ててみたい野菜も出てくるようになる

育てるためには肥料が必要だったり、支柱が必要だったり知識を深めそれを活用する姿があった

夏野菜の方はイメージが付きやすかったようだが秋冬野菜の方は知識に乏しく、その時期には育てられない野菜が出てきたりしていたが、その分2週目の活動の方が調べることがより増えた

調べるための書籍やiPadを用意することで調べる選択肢が増えて、育てる楽しみが深まった

また、育てたものを口にする機会、そのための調理方法を栄養士と一緒に考えることで

苦手なものも口にする変化もあった

保育者は栽培を通して、自然への興味関心が深まり、散歩先での落ちている実について調べてみようという意識が出てきていた 散歩先で落ちていた実を調べると藤の実で口にすると毒があることがわかり他のクラスにも伝えていた

今後は保育者も手伝いながら子どもたちがドキュメンテーションを作成することで発信する力をもつようにしていく